

市民に寄り添い
ともに学ぶ、つながる、つくる
みんなの図書館



丹波市みんなの図書館プラン

(丹波市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画)

資料編



令和8年4月～令和13年3月

～目 次～

1. 丹波市図書館基本計画策定委員会設置要綱	1
2. 丹波市図書館基本計画策定委員会委員名簿	2
3. 丹波市みんなの図書館プランの策定経過	3
4. 基調講演会&意見交換会レポート	5
5. 市民・図書館利用者アンケートの結果	27
6. こども読書アンケートの結果	28
7. パブリックコメントの結果	39

※本編は市ホームページに掲載しています。



1. 丹波市図書館基本計画策定委員会設置要綱

○丹波市図書館基本計画策定委員会設置要綱

令和7年3月27日
教育委員会告示第2号

(設置)

第1条 丹波市図書館基本計画（以下「計画」という。）を策定するに当たり、専門的かつ幅広い見地からの意見を反映させるため、丹波市図書館基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 計画の素案の作成に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、計画の作成に必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員12人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、丹波市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

- (1) 丹波市立図書館協議会委員
- (2) 学識経験者
- (3) 教育関係者
- (4) 公募による市民
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から計画の策定が終了する日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(報償及び費用弁償)

第5条 委員の報償及び費用弁償は、丹波市その他の委員等の報償及び費用弁償に関する要綱（平成17年丹波市告示第516号）による。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、会議において必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴き、又は必要な書類の提出及び説明を求めることがで

きる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育部社会教育・文化財課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮り、これを定める。

附 則

この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

2. 丹波市図書館基本計画策定委員会委員名簿

任期 自 令和7年4月17日
至 計画の策定が終了する日

No.	選出区分	氏名	備考
1	丹波市立図書館協議会委員	蔦木 伸一郎	副委員長
2	//	中澤 利恵	
3	//	由良 ゆかり	
4	//	畑田 久祐	
5	//	伏田 雅子	
6	//	中岡 恵美	
7	//	上山 未登利	
8	//	井上 直志	丹波市立小川小学校長
9	//	増田 博	丹波市立市島中学校長
10	//	橋本 千英	任期 令和7年5月29日から
11	学識経験者	嶋田 学	委員長 京都橘大学教授(図書館学)
12	公募による市民	足立 真美	

3. 丹波市みんなの図書館プランの策定経過

丹波市立図書館では、令和6年度から「丹波市図書館ビジョン」の検討・策定とともに、基礎調査としてアンケートや市民ワークショップを行うなど「丹波市みんなの図書館プラン」の策定を進めてきました。その経過を下記にまとめています。

日時	会議名等	概要
R6.6.6	令和6年度第1回 図書館協議会	「丹波市図書館ビジョン（第2次丹波市立図書館のあり方）」（以下、「図書館ビジョン」という。）の概要、基礎調査等について検討、京都橘大学教授 嶋田学さんによる委員向け基調講演実施
R6.6.6	第1回 丹波市図書館ビジョン 検討コアメンバー会議 （以下、「コアメンバー会議」という。）	「第1次丹波市立図書館のあり方」の「成果と課題」について、基礎調査（アンケート、市民ワークショップ）の検討
R6.6.20	第2回 コアメンバー会議	図書館利用者アンケート・市民アンケート項目案、市民ワークショップ（1回目・7月開催）の内容を検討
R6.6.1～12.28		こどもたちの意見を聞く機会として、丹波市立図書館に来館したこどもたちに「こんな図書館あったらいいな♪」というテーマで絵を募集
R6.7.11～8.9	①市民アンケート 15歳以上の市民1,200人に調査票を郵送 （回答者350人、29.1%） ②図書館利用者アンケート 15歳以上の図書館利用者2,000人に調査票を配布 （回答者639人、31.9%）	
R6.7.21		中央図書館にて市民ワークショップ「おとなもこどもも みんなで考えるこれからの図書館」を開催【参加者30名】 ・オープニングアクトとして閉館後の図書館で「ライブラリーコンサート」 ・総務省地域情報化アドバイザー・岡本真さんの基調講演 ・参加者同士で意見交換会を実施
R6.9.3 R6.9.15		丹波市立図書館で活動する関係団体にヒアリングを実施 ・図書館サポーター【5名】、読み聞かせボランティア【6名】 ・今の図書館に足りない工夫やサービスについて
R6.9.16	第3回 コアメンバー会議	・図書館利用者アンケート・市民アンケートの結果報告 ・市民ワークショップのふりかえり
R6.12.1		丹波市立船城小学校「ふなキッズふれあい図書室」にて基調講演会「市民と図書館」を開催【参加者20名】 ・市民によるまちライブラリーの取組事例発表 ・京都橘大学教授 嶋田学さんによる基調講演「市民と図書館」 ・参加者同士で意見交換会を実施
R6.12.9	第4回 コアメンバー会議	「図書館ビジョン」骨子・素案、市民ワークショップ（2回目・1月開催）の内容検討
R6.12.24	令和6年度第2回 図書館協議会	「図書館ビジョン」素案の検討
R7.1.13		中央図書館にて市民ワークショップ「市民協働で運営するみんなの図書館」を開催【参加者40名】 ・オープニングアクトとして閉館後の図書館で「落語会」 ・総務省地域情報化アドバイザー・岡本真さんによる基調講演 ・参加者同士で意見交換会を実施 ・参加者から「図書館ビジョン」素案について意見を募集
R7.2.12		「二十歳のつどい実行委員会」委員にヒアリングを実施【5名】 ・若い世代の図書館利用状況や魅力的だと思う図書館について

日時	会議名等	概要
R7.2.14	第5回 コアメンバー会議	市民ワークショップ（2回目・1月開催）のふりかえり、計画素案に対する意見への対応、「図書館ビジョン」計画案検討
R7.3.6	第3回 図書館協議会	「図書館ビジョン」計画案検討
R7.3.31	「図書館ビジョン」完成	
R7.6.4	令和7年度第1回 図書館協議会	「図書館ビジョン」に基づく、具体的な運営計画「丹波市みんなの図書館プラン（丹波市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画）」の策定スケジュール等を説明
R7.6.4	第1回 丹波市図書館基本計画 策定委員会（以下、「基本計画策定委員会」という。）	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、正副委員長選出 ・計画策定スケジュール確認 ・子ども読書アンケート内容検討
R7.6.27	第2回 基本計画策定委員会 〔視察研修〕	<p>市民協働による図書館運営を実施している先進図書館視察を実施。視察先：岡山県真庭市立図書館（中央図書館・湯原図書館）</p> <p>〔参加者〕基本計画策定委員会委員 7名 図書館職員 11名</p>
R7.7.17	先進図書館視察 「ふりかえりの会」	<p>中央図書館で岡山県真庭市立図書館視察のふりかえり会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察の感想共有 ・参加者同士で意見交換会を実施 <p>〔参加者〕基本計画策定委員会委員 5名 図書館職員 10名 ※視察不参加の職員含む</p>
R7.7.7～9.30	<p>子ども読書アンケート（GIGAネットワーク構想によるタブレット上で実施）</p> <p>対象 小学校4年生～6年生 1,491人（回答者271人、18.0%） 中学校1年生～3年生 1,564人（回答者536人、34.0%）</p> <p>調査結果は、この「資料編」のP27に掲載しています。</p>	
R7.8.27	第3回 基本計画策定委員会	「丹波市みんなの図書館プラン」素案検討（主にグランドビジョンが描く姿やアクションプランについて）
R7.9.20	<p>氷上住民センターにて「丹波市図書館基本計画策定にかかる講演会&意見交換会」を開催〔参加者30名〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元・ぎふメディアコスモス総合プロデューサー 吉成信夫さんによる基調講演「こどもと本をむすぶもの」 ・参加者同士で意見交換会を実施 	
R7.9.25	教育委員会委員との意見交換会	<p>中央図書館にて丹波市立図書館協議会の委員（丹波市図書館基本計画策定委員会委員を兼務）と教育委員が下記のテーマについて意見交換会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館と学校図書館の連携について ・学校司書の配置検討について ・生涯学習拠点としての公共図書館の役割について
R7.10.9	第4回 基本計画策定委員会	<p>子ども読書アンケート、ヒアリングの結果共有、9月20日に実施した基調講演&意見交換会で出た意見共有、「丹波市みんなの図書館プラン」の素案検討（主に子ども読書活動の推進について）</p>
R7.12.19 ～R8.1.25	<p>市内各所にて「丹波市みんなの図書館プラン」にかかるパブリックコメントを募集〔パブリックコメント数 25件〕</p>	
R8.1.17	<p>中央図書館にて「知ろう！話そう！これからの図書館」（パブコメミーティング）を開催〔参加者 12名〕</p>	
R8.2.5	第5回 基本計画策定委員会	<p>パブリックコメントで寄せられた市民の意見内容を確認、計画の愛称を検討し「丹波市みんなの図書館プラン」に決定</p> <p>「丹波市みんなの図書館プラン」最終案を検討</p>
R8.2.5	令和7年度第2回 図書館協議会	<p>令和8年度からの丹波市立図書館条例施行規則の改正やわかりやすい図書館年報等について協議</p>

日時	会議名等	概要
R8.3.31	「丹波市みんなの図書館プラン（丹波市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画）」完成	

「丹波市図書館ビジョン」策定経過の詳細はこちらをご覧ください。



「丹波市みんなの図書館プラン」策定経過の詳細はこちらをご覧ください。



4. 基調講演会&意見交換会レポート（令和6年度・令和7年度）

丹波市立図書館では、市民の皆さんの声を直接聞く機会として基調講演会&意見交換会を計5回開催し、延べ参加者数142名に参加いただきました。その様子をレポートします！

(1) 令和6年7月21日（日）

「おとなも子どもも みんなで考えるこれからの図書館」

※閉館後の丹波市立中央図書館で開催しました。[参加者30名]

【オープニングアクト】

「ライブラリーコンサート」出演『よしみか』さん



【基調講演】

講師・総務省地域情報化アドバイザー 岡本 真さん



【参加されたみなさんの意見（一覧）】

設備や空間

カフェスペースがある図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店感覚、マンガ喫茶 ・食事もできるスペース ・飲食スペース・キッチンカー
くつろぎスペースがある図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・座り心地が良い椅子やソファ ・ハンモックでくつろげる ・こたつで本が読める ・ゴロゴロしながら本を読めるエリア ・畳やマット、カーペットなど、くつをぬいでくつろげるスペース
テラススペースを活用した図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・テラス席をカフェスペースに ・屋外テラスや芝生の上にテーブルとイス ・外でも本が読める（犬といっしょに）
音楽が流れる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が流れる空間がある ・歌える空間がある図書館 ・楽譜が沢山ある ・コンサートを鑑賞できる図書館 ・ピアノがある
おしゃべりできるスペースがある図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読まなくてもよい雰囲気 ・すこしはおしゃべりしたい ・お話できるスペース ・サークル活動の打合せしたい ・お話してもOK、つどいやすい雰囲気
多目的に楽しめる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館のような図書館 ・子どもだけの場所 ・仕切りがある小部屋、静かにできる場所 ・さわりでもOKな図書館 ・本に興味なくてもたのしめる工夫 ・椅子にも本棚にも使える”階段”のようなスペース ・ガッツリ！勉強できるスペース！ ・音楽スペース（ミニコンサート） ・多目的ルームを作ってコンサートや映画を楽しむ ・オンライン会議に使えるスペースがほしい ・個室ブース（電源、Wi-Fi 完備） ・運動しながら本が読める ・ゆっくり本が読めるスペース ・ワークショップスペース ・図書館に遊具を置いて公園化する
居場所としての図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・家や学校（職場）以外の第3の居場所 ・集中とリラックスができるくつろげる居場所
情報のハブとしての図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・探している本がすぐに見つけられるシステム ・興味のある本から関連本につながる見つけられるシステム ・スーパーのチラシが閲覧できる ・情報掲示板がある ・快適な空調と情報のハブの場所

サービスや機能

便利に利用できる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・夜遅くまで仕事や勉強できる ・週1でも夜20時まで利用したい！ ・24時間貸出と返却ができる図書館 ・年中開いてる図書館 ・開館時間の延長
貸出・返却スポットを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館へ行かなくても本を返却できる ・ゆめタウンで貸出・返却ができる（予約本） ・まちじゅうに貸出スポットがある ・どこでも借りれる、どこでも返せる ・本の返却ボックスやリクエストボックスをゆめタウンやビックやコモレなど人の集まるところに置く
図書館を利用できない人にサービスを届けるアウトリーチの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館サービスを始める ・図書の宅配サービスの拡大 ・ドローンによる宅配 ・図書館スタッフが地域に出ていく
子どもや子育て世代が利用しやすい図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが自分で行けるように、図書館行きのバスを運行する ・母親がリラックスできる、本を選ぶ間子どもを見てくれる ・託児サービスがある ・子どもをあそばせながら利用できる
司書や職員の人材育成や雇用の安定化を行なう	<ul style="list-style-type: none"> ・司書の人材育成に力を入れる ・司書の正規職員として雇用する ・司書の専門性を高めるための研修を行なう ・市民が司書に関われる機会を増やす
情報のハブとしての図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・探している本がすぐに見つけられるシステム ・興味のある本から関連本につながる見つけられるシステム ・スーパーのチラシが閲覧できる ・情報掲示板がある ・情報のハブとしての図書館 ・地域資料の充実、ネットでは出てこない資料を紹介してくれる ・外国人が図書館に来たら、丹波市の情報を得られる ・資料の電子化に力を入れてほしい
図書館を楽しむイベントを開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も楽しめる図書館まつりの開催 ・宿泊できる図書館 ・市民の活動発表の場をつくる ・作家さんのイベント ・ワークショップができる ・専門的な講演会 ・青空（移動）読書会 ・図鑑等を持って出て外で観察会をする ・学びの場がある ・コンサートの開催 ・新しい本をお試しで読める会 ・市民向け自分史の作成支援講座 ・閉館後・休館日を活用してイベントを開催する ・利用者同士のつながりがうまれるイベント ・多世代の交流の機会がある ・障がい者が関わる機会がある
図書館の魅力を情報発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用を促進するために、LINEで発信する ・図書館の役割や使い方を学ぶ機会がある ・6館体制を維持したい

市民や団体・機関との連携

<p>学校や学校図書館との連携による充実・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館に市立図書館の本を設置して借りられるようにする ・学校図書館を市立図書館の分室にして、誰でも利用できるように ・学校図書館を地域に開放して、保護者の居場所にする ・学校図書館での地域のつながりを生み出す ・1校に1人学校司書を配置する ・学校に司書（職員）が1週間、各学校へ常駐 ・学校司書の代わりとして、公共図書館より週に1～2回出張して、学校図書館の運営に関わる ・学校図書館担当の先生向けの支援メニュー ・旧6町の地域図書館と学校図書館のありかたの統合と中央機能レベルUP! ・学校との連携、配達してくれるシニア
<p>市民企画イベントの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックカフェとの連携（イベント企画） ・図書館で一箱古本市 ・図書館でマルシェ ・図書館サポーターの自主活動、園芸クラブ・手芸クラブ ・市民企画の実施 ・お料理教室、アウトドア料理、キッチンカー企画 ・夏の宿題サポート企画
<p>市民・企業・福祉施設・病院・自治協議会・地域の公民館との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商店や病院、公民館などに貸出・返却スポットを置いて、まちじゅう図書館をつくる ・まちライブラリーをふやす（谷川駅・ちーたん文庫） ・ショップや商店に本を宅配して、受け取れる ・商業施設で本を借りることができる ・デマンドタクシーで本宅配
<p>市民プラザ・美術館・博物館・子育て学習センターとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館や資料館との連携 ・子育て（学習C）さんや、アフター（スクール）さんとの連携出張おはなし会など ・福祉や幼児対象の施設との連携 ・市民プラザ・男女共同参画センターの図書の充実と、第3セクターに情報のハブづくりをしたい ・博物館の催しとの連携・企画

(2) 令和6年12月1日(日)

「市民と図書館」

※丹波市立船城小学校の「ふなキッズふれあい図書室」にて開催しました。

[参加者 20名]

【事例発表】「駅の本棚 ちーたん文庫」

発表・ちーたん文庫FRIENDS代表 大原隆子さん



【基調講演】「市民と図書館」

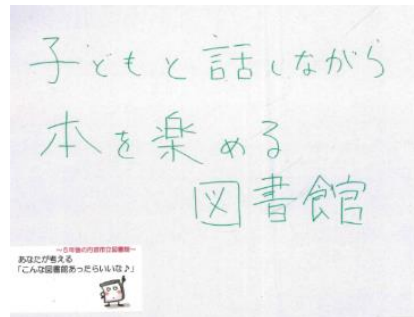
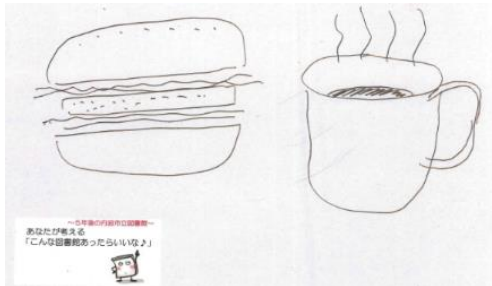
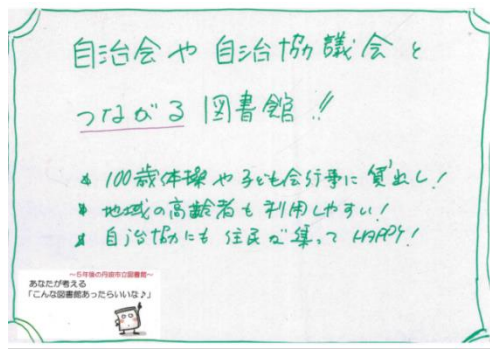
講師・京都橘大学教授 嶋田 学さん



【意見交換会】



【参加されたみなさんの意見ボード（抜粋）】



【参加されたみなさんのご意見（一覧）】

自治会や自治協議会とつながる図書館!!	<ul style="list-style-type: none"> ・100歳体操や子ども会行事に貸出し! ・地域の高齢者も利用しやすい! ・自治協にも住民が集ってHAPPY!
人と人がつながり情報・学び・活動のハブとなる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい!を応援してくれる場所
地元民にもっと開かれ気軽に立ち寄れる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースが館内にとどまらず、出張所が時々出現する。 ・マルシェなど地域のイベントに図書館のブースがあらわれりサイクル本を売るなど
親子であふれる図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館発、いろんな体験講座 ・やっぱり地域に近いところに図書館はほしいかな
行きたい図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・本を借りるだけでなく、ワクワクしに行きたい場所に ・図書館がもっと地域へ学校へ ・6館あるのでそれぞれが地域・学校にもっと密接なつながりがあったらいいな ・子どもと話しながら本を楽しめる図書館・学校やこども園でも図書の本の返却や予約本の受取りができる(こどもを地域の人が見守る、コミュニケーションを兼ねて) ・静かで集中できる場所と、みんなでわいわいできる場所が混同する空間 ・障がいのある方も利用できる充実した資料・設備 ・ゆったりくつろげる空間で子どもと絵本を楽しめる図書館 ・おしゃべり空間 ・食べ物飲み物持ち寄り交流会 ・居眠り OK 図書館 ・6館あるのでそれぞれが地域・学校にもっと密接なつながりがあったらいいな ・乳幼児の遊べるスペース ・カフェスペース ・パーティションのある読書スペース ・BGM を流す ・集いの場としての図書館 ・自分の居場所と思える図書館 ・お家で本を読んでいるように寝ころがって本を読めたらいいな! ・お茶やコーヒーが飲めるスペースがあれば尚いい good! ・音楽が静かに流れてたらきっとおだやかな時が流れる! ・音楽会があればいい!

(3) 令和7年1月13日(月・祝)

「市民協働で運営するみんなの図書館」

※閉館後の丹波市立中央図書館で開催しました。[参加者 40 名]

【オープニングアクト】

「ライブラリーで落語会」出演 一般社団法人 am*am 大垣 拓夢 さん



【基調講演】

講師・総務省地域情報化アドバイザー 岡本 真さん



【意見交換会】



【参加されたみなさんの意見（一覧）】

図書館の運営に、あなたなら、どのように力を貸していただけませんか？

<ul style="list-style-type: none"> ・市民企画をやってみたい ・図書館サービス(レファレンスサービス)を使い倒す ・サポーターとして参加する(オンラインだと参加しやすい)
<ul style="list-style-type: none"> ・空いた時間に運営会議等あれば参加する、 ・60代、70代の人意見の取りまとめをする ・図書館サポーターとしてできる事をお手伝いする ・まずは利用する(年に1度は本を借りて有効カードに！) ・出身者として、DLのオープン配信を閲覧して利用率をあげる ・本の整理をもっと自由に
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サポーター ・アンケート ・郷土資料の寄贈 ・子どもへの読み聞かせ ・本のリサイクルマーケットイベント開催 ・子どもたちを図書館へ送迎 ・学校と図書館の本の貸借 ・家庭での読書習慣づけ
<ul style="list-style-type: none"> ・送迎活動 ・より規制の少ない、図書館サポーターとしての活動 ・審議会等に参加する ・本の紹介をする 人気の本、話題の本をお互いにすすめ合う ・サポーター活動に決まった曜日や時間に囚われず参加できる
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サポーターとして、できることから1歩ずつ活動する ・掃除、花植え ・本の整理 ・宅配ボランティア ・友の会 ・市民ネットワークをさらにつなげる ・他自治体での情報をもってくる 反対に発信する。 ・自分たちの居場所 ・子どもへの読み聞かせ
<ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせ ・おススメの本を紹介する(POPづくり) ・読み聞かせグループの一員となる ・花壇の草取り、花うえ ・図書館でのイベント等に、ボランティアで参する(リサイクルフェアなど)

市民のみなさんの声を、図書館の運営にいかすには、どのような方法があると思いますか？

<ul style="list-style-type: none"> ・市長に市民の想いを伝える ・市と対等な関係にある「ささやま友の会」のような組織をつくる ・友の会主催の行事やイベントが開催できるように、予算を確保 ・図書館について話せる場を定期的を開催する ・オンラインでも参加できる機会を増やす ・図書館に熱意がある人のグループが必要 ・サポーターをまとめるリーダーが必要 ・図書館に関わる人のネットワークをつくる ・連絡手段を工夫して、情報が届くようにする ・図書館は活動場所を提供して、メンバーが利用できるようにする ・視聴覚室を開放して、有効活用する
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声の応募箱をつくる ・SNS の活用 ・市民の意見を聞くために話し合いの機会をもうける 決まったことを実行していく ・図書館について考える会議を開催する ・自治会の中に図書委員をつくる ・図書館LINEでやりたいことと人を募集する ・何かイベントをして人を集めて来た人に意見を聞く
<ul style="list-style-type: none"> ・本を借りるだけでなく、コミュニケーションの場として利用する ・借りた本とお茶を飲みながら見る ・防災無線でイベント宣伝
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治協議会を地区文庫として活用する ・自治会や自治協の活動団体からの意見を聞く機会をつくる 「あなたなら何ができますか」という質問をする ・アンケートに答える ・声掛けをする 館内の展示・行事に誘う ・レファレンス・調べものコーナーと楽しむコーナーの機能分けをする ・図書館では司書さんにいろいろ調べてもらえることを、周知してほしい ・イベント会場に図書館を利用できることを知らせる
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションボード(居場所) ・各場所とのコラボ ・移動図書館とキッチンカーとのコラボ ・井戸端会議 ・「ありがとう」の声集め ・サポーターさんのネットワーク ・キーステーション(自治会など) ・村のふれあい喫茶へ意見を聞きに行く ・図書館キャラクター ・移動図書館のインスタ発信 ・電子図書館の使い方出張講座 ・子どもが騒いでもいい図書館 ・SNS 情報発信 ・イベント企画主催
<ul style="list-style-type: none"> ・メールで意見を届ける ・図書館に関するご意見窓口をつくる ・WEB 上にも窓口を設ける ・市の有線で放送する

その他のアイデア

<ul style="list-style-type: none">・外国の文化に触れる機会をつくる ・多言語の絵本を置く・市議会議員が図書館をもっと活用する ・スタッフを増やす・図書館の使い方を、小学生の頃から学べる機会をつくる・司書がまちに出ていく
<ul style="list-style-type: none">・本を借りるだけでなく、コミュニケーションの場として利用する・借りた本とお茶を飲みながら見る ・移動本屋をされている方と協働・防災無線でイベント宣伝
<ul style="list-style-type: none">・本を捨てずに紙として利用(アート・趣味)・本が何からできているか、末路まで勉強してほしい ・本のリサイクルを考える
<ul style="list-style-type: none">・発言掲示板を設置する(図書館内、駅、病院、住民センター)・読書、文化面の発展に向けて、学び方・方法の意見・発言提案版の設置・月1回程度の読書会 ・水・お茶が飲めるコーナーがあるといい・図書館まつり(団体発表、こたつ読書、縁側読書) ・使い方セミナー ・図書館ツアー
<ul style="list-style-type: none">・外に公園(子どもを外で遊んでいて、ママは本を読んでいるとか)・高齢者・障害のある人に、読みたい本を配達できるシステム・私語をしない静かな空間を、違うことで利用する・借りた本の題名が気になる人がいる・昔人気だった本を入れる ・声を出しても大丈夫な環境をつくる・雑誌を全館共通で置いてほしい ・月曜日も開館し、時間を前後延ばしてほしい・鉄道雑誌でも「鉄道ファン」に限らず他の雑誌も置いてほしい・カフェがある(休める場所) ・ショッピングコーナー(文具・本)が買える・駐車場の前に開館している時間が表示されていると行きやすくなる
<ul style="list-style-type: none">・図書以外の催しがあれば嬉しいです。気軽に来れるイベント・固いイメージがあるのでもう少し入りやすい感じがほしい・ドラマのDVDがあれば嬉しい

(4) 令和7年9月20日(土)

「丹波市図書館基本計画策定にかかる講演会&意見交換会」

水上住民センター・大会議室で開催しました。[参加者 40 名]

【基調講演】「こどもと本をむすぶもの」

元・ぎふメディアコスモス総合プロデューサー 吉成 信夫さん



【意見交換】各グループで図書館の職員が進行役を担当しました。



【参加されたみなさんの意見】

※太字は、全体共有時に共感を集めたアイデア ※赤字は、参加者から特に多く共感を集めたアイデア

市民が 図書館と	やりたいこと	できること
<p>こどもたちが本に親しむ機会</p> <p>乳幼児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館にある本をテーマにワークする <ul style="list-style-type: none"> ・本から得た知見を共有し、行動に落とし込む（ベビーマッサージなど） ●移動図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーのような気軽さ楽しいイメージで ・身近な場所にやってくるワクワク感 ●図書館内でイベントを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野のイベント（プラネタリウムなど）を開き、その分野への興味を持たせ本の貸出へと繋げる ●キャラクターカートを準備 <ul style="list-style-type: none"> ・わんこカートのようなカートを用意し、図書館へ来る楽しみをつくる ●近所のこどももいっしょに図書館へつれていく ●おうちおはなし会 ●親子で飛び出す絵本づくり <ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けがあったほうがこどもも興味を持つ ・お父さんも参加しやすい ・とびだす絵本を作るのが得意な作家さんがいるので、一緒にする ●居場所となるサードプレイスをつくる（ゆめタウン） <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、本の配達、声出してOK、カフェ、遊べる場所 ●読書通帳の写真版 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが写真好きそれぞれが好きな方法で記入したい ・こどもたちを集めて、本の中の登場人物になりきって本を読んでもらう大人にも見てもらう ●イラストやマンガを楽しく表現できる機会をもつ <ul style="list-style-type: none"> ・本紹介など ●身近に絵本のある環境をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・図書館へいかななくてもいるんなところで図書（絵本）が手にとれる場所づくり ●乳幼児健診の会場を図書館の近くにしよう <ul style="list-style-type: none"> ・健診の帰りだと図書館に寄りやすく、きっかけ作りにもなる ●ブックスタートの次の段階へのPR <ul style="list-style-type: none"> ・出張絵本ひろば ●本に親しむハードルを下げる（きちんと読まなくてもいい） ●乳幼児を図書館に連れてくるのは大人なので、大人が興味を持つ仕組み（敷居を低くする仕組み）を作る <p>例：おしゃべりできる、BGMが流れている、寝っ転がれるスペース、散歩するだけで面白い、常設の工作コーナー（折り紙など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●工夫を凝らした読み聞かせ会 <ul style="list-style-type: none"> ・ぬいぐるみを使う・祖父母といっしょに参加（ママは休憩、自分の時間） ・地域の人による読み聞かせ ●絵本の譲渡会 <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で不要になった絵本を持ち寄る ●子どもが好きな本を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好きな本を発表できる時間をもつ（パパママは見守る） ●〇〇と読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽×絵本 ・組み合わせは無制限 ・思いがけないイメージが生まれる ●図書館に連れてくるきっかけづくり <ul style="list-style-type: none"> ・たのしいイベント（本にとらわれない） ●おすすめ本を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・ポップを作る ・「こんな本おもしろいよ！」とおすすめ本を口コミで教える ●家で不要になった本を図書館へ寄付する ●土日に読み聞かせを行う <ul style="list-style-type: none"> ・親子そろって紙芝居をする ・親子どちらも楽しいおはなし会をする ●図書館にある本を利用し、読み聞かせをする <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協力して・学校の図書室でおはなし会をする ●しゃべってもいい、親子で使える部屋をつくる ●健診の時におはなし会のお知らせをしよう <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が減ってきているので具体的なお知らせをする ●ぬいぐるみや人形のお泊り会 ●こどもが本に出会える場所をふやす <ul style="list-style-type: none"> ・ちーたん文庫のような（図書館以外に）子ども向けの本が見られる場所をふやす ●図書館に行きたいといえば連れてくる ●好きな本の話聞いてやる ●自分の好きな本の話をする

市民が図書館と		やりたいこと	できること
<p>子どもたちが本に親しむ機会</p> <p>小中生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館まつりの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、工作、キッチンカー ●下校時の図書館利用 ●親しめる図書館づくり <ul style="list-style-type: none"> ・中高生自身による YA コーナー作り（自分たちが読みたいもの） ・子供が好きな本を発表できる機会 ・ゴロゴロできる ・音楽が楽しめる ●安心できる場所 <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけの個室 ・自分たちで運営できる図書館 ●10代のための部屋 <ul style="list-style-type: none"> ・大人は入れない ・語り合える場所 ・本好きがおしゃべりできる場所（学校では本が好きと言えない雰囲気、真面目だから本が好き、ではない） ●図書館内でイベントを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野のイベント（宇宙イベント）を開き、その分野への興味を持たせ本の貸出へと繋げる ●本を使って世界の言葉辞典作り ●図書館から「ここから book」に本を貸し出し ●演劇で本の世界を表現する ●「推し活の日」 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が推しの本、人物について語り合う日を決め、図書館内に掲示し、参加者を募る 例)「〇〇推しの人、集まれ！」 ●移動図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや放課後に貸出する ●図書館で開催される読書会で交流したい ●小学校での読み聞かせボランティアを地域で募集 <ul style="list-style-type: none"> ・年々読み手が減っていて保護者の方も積極的でない ・やってみたいという方を地域で募集する ●体験型ワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> 例：有川浩の「植物図鑑」に載っている雑草を探し、そのレシピで料理し、食べるなど ●夜の図書館で過ごす ●みんなのライブラリー（市民が自分の図書館コーナーを作る） 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマホをいじる時間帯を減らし昔の本を読む ●図書館が居場所になる <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭で安心できないこどももいる、どちらでもない場所 ●絵本を作ってみる <ul style="list-style-type: none"> ・創作の場にもなりうる ・読むだけ、借りるだけではない ●市民が好きな本 <ul style="list-style-type: none"> ・思い思いの好きが誰かに届く ●学校へ行っておはなしし会をする ●ボランティアで読み聞かせに行く <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな本を学校へ ・休み時間にこどもたちに読 ●こどもたちが普段いく場所で返却できるポスト ●読書通帳の写真版 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが写真好き、それぞれが好きな方法で記入したい ・こどもたちを集めて、本の中の登場人物になりきって本を読んでもらう、大人にも見てもらう ●イラストやマンガを楽しく表現できる機会をもつ <ul style="list-style-type: none"> ・本紹介など ●こどもが本に出会える場所をふやす <ul style="list-style-type: none"> ・ちーたん文庫のような（図書館以外に）子ども向けの本が見られる場所をふやす ●図書館に行きたいといえば連れてくる（小学生） ●自分の好きな本の話をしたり、紹介したりするイベントの開催（ビブリオバトルのバトルなし？） ●家に遊びに来た我が子の友達が本に触れる環境を作る ●「こんな人に読んでほしい」と本を提案 	

市民が図書館と		やりたいこと	できること
本を通じた家族の絆を深める家庭教育支援	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ●各家庭での環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・本棚に本を置き、大人も子供も本を楽しむ環境をつくる ●ベビーマッサージ <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で意外に思えるイベント ●子育て相談 <ul style="list-style-type: none"> ・関連図書 ・保健師が駐在する日 ●寝る前等タイミングを決めて読み聞かせを行うよう促す ●笑顔であいさつ ●利用者の意識をかえる取組 <ul style="list-style-type: none"> ・館内でこどもが泣いていてもさわいでいてもみんなが見守ることができるように ●発達年齢にあった本を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの本の中から自分で選ぶのは難しい、紹介してもらうことで手取りやすくなるのでは ●FM ラジオで読み聞かせ ●親子のワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> 例：絵本に出てくるお菓子作り 例：絵本に出てくるキャラクターをおりがみで作るなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●大人も楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・託児（ママのための時間） ●リラックスして読み聞かせを <ul style="list-style-type: none"> ・親も楽しむ、ただ楽しむ ・将来のため、とか考えない ●興味がありそうな本をたくさんそろえる ●気軽に読み聞かせできるスペースをつくる ●さまざまな家庭に働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会に参加する家庭は親が本好きの方が多い、親が本に興味がなく本に親しむ機会のない子どもたちに向けて参加を働きかけていきたい ●図書館に行きたいといえれば連れてくる ●我が子に読み聞かせ ●好きな本の話聞いてやる ●自分の好きな本の話をする
	小中学生	<ul style="list-style-type: none"> ●マルシェ <ul style="list-style-type: none"> ・古本市、一箱本棚（一箱館長） ●親子で工作教室（親子ともスマホから離れてすごす） ●メッセージを伝える <ul style="list-style-type: none"> ・図書館はあたたかい安全な場所だと伝える ●葉っぱのフレディの演劇 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防週間などの取組の一環として、いのちに関する演劇等を上演する ●自分も読書する時間をもつ <ul style="list-style-type: none"> ・家族が読書をしていないとこどもも本を読まない ●夜の図書館イベント <ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンなど夜の図書館で開催するイベント ・夜なら出やすい家族に来てみて本を探す体験してもらう ●図書館に行きたいといえれば連れてくる（小学生） ●親子のワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談室の開設 <ul style="list-style-type: none"> ・私生活、学校のこと、心配ごと図書館に相談できる人がいる ●みんなで楽しむ図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・共有スペースでの子守り（お互いさま） ・駄菓子屋 ・ほっとできる居場所づくり ●今している取組をアピール ・楽しく伝える ●スマホを触る代わりに本を読む日時を設ける ●こどもの好きな本をプレゼントする ●親子ミニ図書館披露会 <ul style="list-style-type: none"> ・親と子供がそれぞれ好きな本を一つの箱に入れ、家族でつくった図書館に名前を付け、体育館など大きなスペースで披露しあう ●自分が本を読む（姿を見せる） ●図書館に行きたいといえれば連れてくる（小学生）

市民が図書館と		やりたいこと	できること
こどもたちの教育環境の充実のための学校図書館支援	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ●こども園の本を地域へ提供（月2冊まで） ●リクエスト本を学校へ <ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館の本を学校で受け取れる ●ママ友が作りやすい環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆるやかな交流 ・気をつかう関係性ではない出会い ●保育所・幼稚園への出張読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> ・「こちらから行く」ことで図書館を知ってもらう ・来てもらうきっかけにもなる 	
	小中学生	<ul style="list-style-type: none"> ●学校図書館の開放 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる図書整理（楽しい場所にする） ・ボランティアが勉強を教えてくれる ・電子図書使い方講座 ・学校図書館カフェ ●学校図書館に行かなくても <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や教室でも読める ●学校図書館で自由にすごせる <ul style="list-style-type: none"> ・本を読まなくても行っていい場所になる ●小中高生に読みたい本のアンケートをとる ●学校図書館を地域の人に開放し、交流できる場所に ●子ども同士で本の読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> ・大人にはない視点の選書や紹介が文学や物語に触れるきっかけにもなる ・上級生が下級生や乳幼児に読み聞かせ ●図書館でグループ学習や話し合いができる環境を作る ●学校帰りに図書館に立ち寄りができるようにする ●市の図書館システムと学校図書館のシステムを同じにして、どちらでも借りられ、どちらでも返せるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ●学区図書館の開放 <ul style="list-style-type: none"> ・ボードゲームを置く ●居場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・規則にしばられない ・あたたかい交流の場となる ●図書館の整理に時々行く ●ボランティアに登録する ●学校図書館で、ボランティアと一緒におすすめ本の紹介ポップアップをつくる ●図書館でテスト勉強や宿題ができる環境を作る ●県内どこの本でも借りられる（すでに相互貸借として実施）

図書館が		できること	すべきこと
こどもたちが本に親しむ機会	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ツアー <ul style="list-style-type: none"> ・こども園などから来てもらう ●移動図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館、カート、キッチンカー ●もっとマンガを置く <ul style="list-style-type: none"> ・本よりも手軽に読める ・マンガをきっかけに本を好きになってもらう ・教養が身につくような本は置くべき（「いじわるのバアさん」など） ・市民が求めている本があることで、使いやすさにつながる ●体験型の絵本講座 <ul style="list-style-type: none"> （図書館×子育て学習センター、図書館×地域の公民館など） ・「どうぞのいす」の設置 <ul style="list-style-type: none"> （ここで「どうぞのいす」を読むもよし、何かお菓子やお土産を置いていくもよし） ●ファミリーデーの実施 ●乳幼児を図書館に連れてくるのは大人なので、大人が興味を持つ仕組み（敷居を低くする仕組み）を作る 例：おしゃべりできる、BGMが流れている、寝っ転がれるスペース、散歩するだけで面白い、常設の工作コーナー ●各図書館でユニフォームを作るなどして色を出す 	<ul style="list-style-type: none"> ●小さな子ども連れていける環境づくり（ママが楽な場所） <ul style="list-style-type: none"> ・おむつかえ、授乳室 ・じゅうたんを敷く（安全にゴロゴロして過ごせる） ●読み聞かせの機会を増やす ●読書のはげみになる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん本を読んだ子にプクプクシールを渡す ●こどもがのびのびできるスペース（大人とわかる） <ul style="list-style-type: none"> ・少しぐらい声を出しても構わない ・親子で読み聞かせしながら絵本を選べる ●イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・親子一緒に参加できる ●にゃんこカートをつくる ●本に興味に向く工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本のキャラクターの着ぐるみなど ●スペースをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・保護者とこどもがサークル活動できるスペース ・保護者もくつろげるスペース ●本を減らして空間を作る ●季節のイベントを企画し、市民と一緒に実施する ●ゆっくり過ごすために <ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店やお弁当を食べる場所がほしい ・こどもがぐずっても気兼ねなく過ごせる場所 ●子の親世代への教育 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代が交流できるイベントを図書館が企画する ・こどもが親以外の大人とふれあえる ・イベントに合わせた本を用意しておいて、借りて帰ってもらう（子育て関連の本など）思いがけない出会い ●読み聞かせのスペースを作る <ul style="list-style-type: none"> そこではおしゃべりもOK ●絵本はきちんと読まなくていい、見るだけでもいいと若いお母さんやお父さんに分かってもらう（ブックスタートですでに実施だが、不十分かも）

図書館が	できること	すべきこと
<p>こどもたちが本に親しむ機会</p> <p>小中学生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが利用できる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・図書館巡回バス ・図書館便りの発行 ・移動図書館 ※お菓子付き ・開館時間の延長 ・返却ボックスの数を増やす ●図書館に愛称をつける <ul style="list-style-type: none"> ・固さや敷居の高さをイメージに囚われてしまう「図書館」という名称を使わない ●カフェをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館」という名称が想起させるイメージの対極にあるもの ・おしゃべり、交流、気楽、わいわい ●体験型の企画 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に出てくる料理を作って食べてみよう ●小さなコンサート <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちが音楽で習ったリコーダーや鍵盤ハーモニカのミニミニコンサート ●図書館マルシェ ●SNSでバズるイベント開催 ●いろいろなところとコラボしてイベント開催 例：屋上を開放して星空観察会 【山南】 ●出張図書館（移動図書館） ●みんなのライブラリー（市民が自分の図書館コーナーを作る） 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが楽しめる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機の設置 ・カフェコーナー（飲食 OK） ・創作本棚設置 ・漫画本の設置 ・リラックスできる音楽やイスの設置 ・性別に関係なく読みたいものを整備 ●こどもの心によりそう <ul style="list-style-type: none"> ・「静かに」を強調しない ・心が動いたら笑ってもいい ・こどもの場所をわける ●意見を出せる掲示板 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたち、10代の意見を表現できる場 ●本に興味をもつイベントを開催 ●色々なジャンルのおすすめポップを展示 ●スペースをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・誰とでもおしゃべりOK ・カフェスペース ・テラス席 ・どんなににぎやかに過ごしてもよいスペース ・友達と遊べるスペース ●図書館に個室空間を作る <ul style="list-style-type: none"> ・ネットカフェのように、人目につかない場所で落ち着いて本を読みたい ●使い終わった参考書を持ち込み紹介するコーナー <ul style="list-style-type: none"> ・使わない参考書を図書館に持って来て、必要な人が持って帰る ・参考書以外にも、市民が持ち込んだ本を（図書館主催の）リサイクルフェアに出す ●観察会 <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会 ・星空観察会 ●少し騒いでもいい場所 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習スペース ●寝転んでOKなヨギボーやクッションのある空間 ●親子で読み聞かせができる場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ソファ、ヨギボー、こたつ、などを設置して、くつろげる場所をつくる ●自分の好きな本の話をしたり、紹介したりするイベントの開催（ビブリオバトルのようなもの）

図書館が		できること	すべきこと
本を通じた 家族の絆を 深める家庭 教育支援	乳 幼 児	<ul style="list-style-type: none"> ●ブックスタートの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・提供できる絵本にパパママがこども時代に好きだった絵本を加える、親もこどもの頃の気持ちを思い出せる ●子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・育児書 ・実際に相談できる人がいる ●こどもの本のリクエストを受け付ける ●子育て中の親御さんに子どもと一緒に読んで楽しかった本を尋ねる ●ソファ、ハンモック、ビーズクッションを置く ●もぐりこめる空間を作る <ul style="list-style-type: none"> ・児童書コーナーの真ん中にインディアンテントなどを設置 ●親子のワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> 例：絵本に出ている菓子作り 例：絵本のキャラクターをおりがみで作るなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●つながりの場になる <ul style="list-style-type: none"> ・地域や PTA などと違う関係 ・ゆるやかにつながる、気軽にしゃべれる ●こども雑誌を充実させる ●読み聞かせのスペースを作る <ul style="list-style-type: none"> そこではおしゃべりもOK
	小 中 校 生	<ul style="list-style-type: none"> ●アウトメディアとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル機器に触れる時間をコントロールし、メディアとの付き合い方を見直す ・スマホ講座 ●本について語り合える場 <ul style="list-style-type: none"> ・親子で、家族で ●進路相談コーナーの設置 ●本の福袋を配布する ●図書館旅部 <ul style="list-style-type: none"> ・メディアコスモスに遊びに行くツアーを募る ●親子のワークショップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭読書の日をもっと大々的に呼びかけ ・具体的なアクションを起こす

図書館が		できること	すべきこと
こどもたちの教育環境の充実のための学校図書館支援	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ●本に関するカルタやゲームを置く ●図書館司書によるブックトークを『図書の日』に組み込んでほしい ・一部の学校ではすでに実施、学校だけでなく親にもこういうことをやっていることをPRすることで学校が動いてくれるのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館のおすすめ本を貸し出す ●こども園の先生対象の読み聞かせの研修実施 ・選書の仕方、読み方、など
	小中学生	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館の本を学校の図書館で借りることができる ・図書館システムの導入 ●学校図書館の開放 ・フリーWi-Fi ※ゲームOK ・学校の下校時の寄り道OK ・勉強、おしゃべりOK ●地域の本の拠点と連携 ・民間設営の文庫、自治協議会、公共図書館など ●公共図書館の司書が選んだ本を学校へ ・テーマを聞いて本をそろえる ・授業でも役に立つ ●移動図書館を時々学校へ ●マンガや雑誌も取り入れて本に親しむ入口をつくる ●悩み相談を図書室でできるようにする→その悩み解決へのオススメ本を紹介 ●家族と一緒に図書室へ行ける日を設ける ●夜間・開放デーの実施（22時くらいまで） ●市の図書館システムと学校図書館のシステムを同じにして、どちらでも借りられ、どちらでも返せるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ●今やっている取組をPR ・もっと楽しく、広く知ってもらう ●返却ポスト ・いろいろな所で返却できるポスト ●こどもが本に関する情報(電子図書館など)を知れる機会を増やす学校にPRする ●本を読む手段(情報)を伝える ・小4(1/2成人式の時期)に、電子図書館の広報をする ・本のプレゼントの代わりに、本を読む手段(情報)をプレゼントする ●本の好きな子どもが本のPRをする ・大人はその発表の手伝いをする ・発表することが子どもの自信につながる ●学校の先生対象の研修実施 ・おすすめの本の選び方、など ●本を読むところと学習するところのスペース分け(グループ学習のスペースも) ●学校図書館との連携 ●学校司書の設置

(5) 令和8年1月17日(土)

「知ろう!話そう!これからの図書館」(パブコメミーティング)

中央図書館・視聴覚室で開催しました。[参加者12名]

令和7年12月19日(金)から令和8年1月25日(日)まで、丹波市みんなの図書館プラン(素案)についてパブリックコメント(意見公募)を行いました。このイベントは、丹波市みんなの図書館プランをより多くの市民に知っていただくために開催したものです。(パブリックコメントの結果は39ページに掲載しています。)

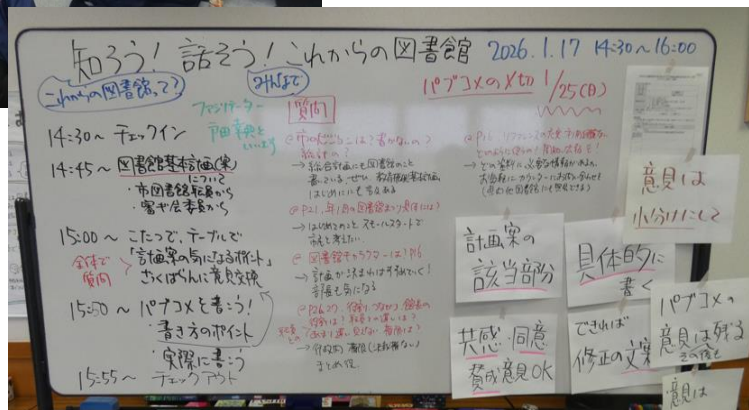
【丹波市図書館基本計画策定委員会委員の説明】

策定過程で大事にしたポイントや注目してほしいことを説明



【気になったポイントの共有】

丹波市みんなの図書館プラン(素案)を読んでみて、気になったポイントを参加者同士で共有した後、パブリックコメントの書き方を解説しました。



5. 市民アンケート・図書館利用者アンケートの結果（令和6年度）

「丹波市図書館ビジョン」や「丹波市みんなの図書館プラン」策定の基礎資料として実施しました。

調査期間：令和6年7月11日（木）～8月9日（金）

（1）市民アンケート

無作為に抽出した丹波市民（15歳以上）にアンケートをお願いする文書と調査票を郵送し、調査票を返信・持参のほかwebでも回答を受け付けました。

対象者1,200人に対し、回答は350人でした。（回答率29.1%）

（2）図書館利用者アンケート

図書館利用者（15歳以上）2,000人に丹波市立図書館6館でアンケート調査票を手渡し、回答をお願いしました。調査票を返信・持参のほかwebでも回答を受け付けました。

対象者2,000人に対し、回答は639人でした。（回答率31.9%）

市民アンケート・図書館利用者アンケートの調査票、単純集計表、クロス集計表、自由記載欄に回答された意見は「丹波市図書館ビジョン」策定経過として、丹波市ホームページに掲載しています。



6. こども読書アンケートの結果（令和7年度）

こどもたちの読書等の実態を知るために、市内の小学生・中学生を対象にしたアンケートを実施しました。その結果を報告します。

このアンケートの結果は「丹波市みんなの図書館プラン」の運営方針2「こども読書活動推進に取り組む図書館」を中心に反映させています。

丹波市立図書館 こども読書アンケート

結果報告書

調査期間：令和7年7月7日～令和7年9月30日

区分	学年	対象者	回答数	回答率
小学生	4年生	475	95	20%
	5年生	498	88	18%
	6年生	518	88	17%
	計	1,491	271	18%
中学生	1年生	488	119	24%
	2年生	524	201	38%
	3年生	552	216	39%
	計	1,564	536	34%
合計		3,055	807	26%

※端数処理の関係で、合計が100%にならない場合があります。

(1) こども読書アンケート調査票

※このアンケートの中の「本」には、雑誌やマンガはふくめます。教科書はふくめません。

問1 あなたの学校を選んでください。
() 小学校・中学校 ※回答フォームは選択できるように設定

問2 あなたの学年を選んでください。
1. 小学4年生 2. 小学5年生 3. 小学6年生 4. 中学1年生 5. 中学2年生 6. 中学3年生

問3 読書が好きですか？
1. 好き 2. どちらかという好き 3. どちらかというきらい 4. きらい

問4 どんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)
1. 絵本 2. 物語(童話、昔話、小説など) 3. 伝記や歴史
4. 植物や動物 5. 科学や宇宙 6. 料理やあみもの
7. スポーツや音楽 8. 雑誌 9. マンガ
10. 読まない

問5 【問4で、1～9を選んだ人が答えてください。】
なぜ本を読みますか？(2つまで選べます。)
1. 楽しいから・おもしろいから 2. 興味があることをさらにくわしく知れるから
3. 知らないことを知れるから 4. まわりの大人に本を読みなさいと言われるから
5. 気持ちが落ち着くから 6. 本を読んで想像することが楽しいから
7. その他()

問6 【問4で、1～9を選んだ人が答えてください。】
1日あたりの読書時間はどのくらいですか？(朝読の時間は入れません。)
1. 1時間以上 2. 30分以上1時間まで 3. 30分まで

問7 【問4で、1～9を選んだ人が答えてください。】
本をいつ読みますか？(朝読の時間は入れません。)
1. 平日(月曜日～金曜日) 2. 休日(土曜日、日曜日、祝日) 3. 平日と休日のどちらも

問8 【問4で、10を選んだ人が答えてください。】
本を読まないのはなぜですか？(2つまで選べます。)
1. 読書がおもしろくないから 2. 習い事や勉強で時間がないから
3. 本を読むとつかれるから 4. スポーツやクラブ活動の方が楽しいから
5. テレビ・ゲーム・インターネットの方が楽しいから 6. 読みたいと思う本がないから
7. どの本を読めばいいかわからないから 8. その他()

問9 小さいころ、まわりの大人に本を読んでもらいましたか？
1. よく読んでもらった 2. ときどき読んでもらった 3. 読んでもらったことがない 4. おぼえていない

問10 まわりの大人は本を読んでいますか？
1. よく読んでいる 2. ときどき読んでいる 3. あまり読んでいない 4. わからない

問11 スマートフォンやタブレットなどで、1週間にどのくらい読書しますか？
1. 毎日 2. 4～6日 3. 1～3日 4. 利用しない

問12 学校の図書室を、1週間にどのくらい利用しますか？
1. 5回以上 2. 3～4回 3. 1～2回 4. 利用しない

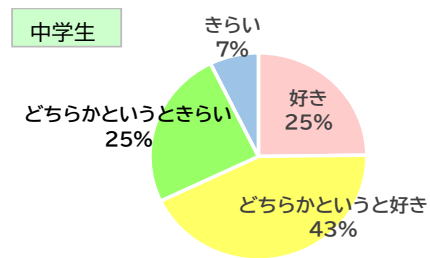
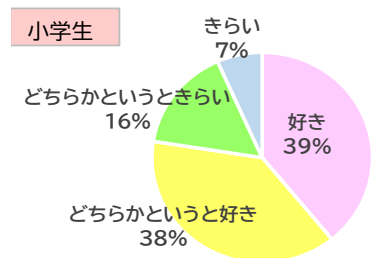
問13 学校の図書室にしてほしいことは何ですか？(2つまで選べます。)
1. いろいろな本をそろえる 2. 開いている時間を長くする
3. 借りられる本の数をふやす 4. 借りられる本の期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる 6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする 8. くつろげるスペースをつくる
9. 静かに集中して本を読めるスペースをつくる 10. おしゃべりができるスペースをつくる
11. その他()

問14 学校以外の図書館を、1年以内にどのくらい利用しましたか？
1. 毎月 2. 3か月に1回くらい 3. 半年に1回くらい 4. ほとんど利用していない
5. 利用したことがない

問15 学校以外の図書館にしてほしいことは何ですか？(3つまで選べます。)
1. 家の近くに本を借りたり返したりできる場所をつくる
2. いろいろな本をそろえる 3. 開いている時間を長くする
4. 借りられる本の数をふやす 5. 借りられる本の期間を長くする
6. 本をさがしやすくする 7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. 楽しいイベントをする 9. くつろげるスペースを作る
10. 静かに集中して本を読めるスペースをつくる 11. おしゃべりができるスペースをつくる
12. 電源やWi-Fiを使えるようにする 13. 自動貸出機を使えるようにする
14. その他()

(2) 単純集計表

問3 読書が好きですか？		回答数	割合
小学生	好き	106	39%
	どちらかという人喜欢	104	38%
	どちらかというときらい	43	16%
	きらい	18	7%
中学生	好き	133	25%
	どちらかという人喜欢	231	43%
	どちらかというときらい	133	25%
	きらい	39	7%



問4 どんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)		回答数	割合
小学生	マンガ	150	35%
	物語(童話、昔話、小説など)	88	21%
	絵本	49	12%
	伝記や歴史	32	8%
	科学や宇宙	21	5%
	料理やあみもの	20	5%
	植物や動物	16	4%
	スポーツや音楽	13	3%
	雑誌	11	3%
	読まない	25	6%
中学生	9.マンガ	311	37%
	2.物語(童話、昔話、小説など)	276	33%
	7.スポーツや音楽	59	7%
	3.伝記や歴史	31	4%
	8.雑誌	29	3%
	1.絵本	23	3%
	5.科学や宇宙	21	2%
	4.植物や動物	17	2%
	6.料理やあみもの	8	1%
	10.読まない	67	8%

問5 なぜ本を読みますか？(2つまで選べます。) 【問4で1～9を選んだ人が答えてください。】		回答数	割合
小学生	楽しいから・おもしろいから	161	42%
	知らないことを知れるから	60	16%
	興味があることをさらにくわしく知れるから	54	14%
	本を読んで想像することが楽しいから	50	13%
	気持ちが落ち着くから	42	11%
	まわりの大人に本を読みなさいと言われるから	10	3%
	その他	8	2%

その他	
	・暇つぶしになるから
	・面白い
	・眠くなるから
	・読む時間(強制)
	・あまり読まない
	・興味があるから
	・いろいろな言葉を学べるから

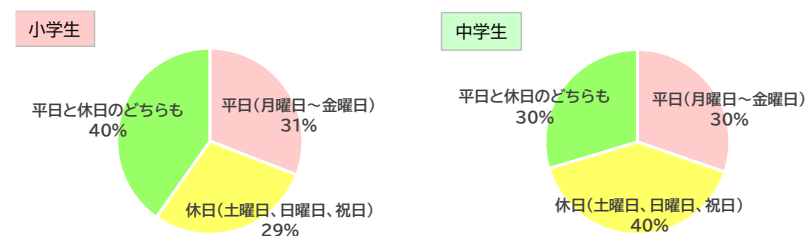
		回答数	割合
中学生	楽しいから・おもしろいから	323	44%
	興味があることをさらにくわしく知れるから	109	15%
	本を読んで想像することが楽しいから	104	14%
	知らないことを知れるから	82	11%
	気持ちが落ち着くから	70	10%
	まわりの大人に本を読みなさいと言われるから	28	4%
	その他	10	1%

その他	
	・学校で読書の時間があるから
	・暇だから、暇つぶし、暇をつぶすため、暇な時間を潰したいから
	・本を集めたいから、別に本を読もうと思って買うわけではない
	・有意義な時間を過ごすため
	・表紙や本の題名が面白そうだから

問6 1日あたりの読書時間はどのくらいですか？(朝読の時間は入れません。)(問4で1～9を選んだ人が答えてください。)		回答数	割合
小学生	1時間以上	42	17%
	30分以上1時間まで	63	26%
	30分まで	141	57%
中学生	1時間以上	43	9%
	30分以上1時間まで	94	20%
	30分まで	332	71%



問7 本をいつ読みますか？(朝読の時間は入れません。)(問4で1～9を選んだ人が答えてください。)		回答数	割合
小学生	平日(月曜日～金曜日)	76	31%
	休日(土曜日、日曜日、祝日)	71	29%
	平日と休日のどちらも	99	40%
中学生	平日(月曜日～金曜日)	142	30%
	休日(土曜日、日曜日、祝日)	188	40%
	平日と休日のどちらも	139	30%



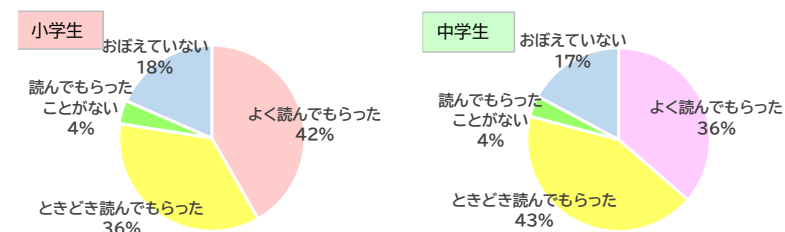
問8 本を読まないのはなぜですか？(2つまで選べます。) 【問4で、10を選んだ人が答えてください。】			
	回答数	割合	
小学生	読書がおもしろくないから	13	31%
	読みたいと思う本がないから	10	24%
	テレビ・ゲーム・インターネットの方が楽しいから	9	21%
	習い事や勉強で時間がないから	5	12%
	スポーツやクラブ活動の方が楽しいから	2	5%
	どの本を読めばいいのかわからないから	2	5%
	本を読むとつかれるから	1	2%
	その他	0	0%

その他

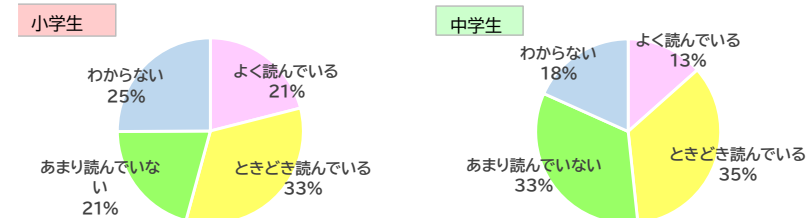
	回答数	割合	
中学生	読みたいと思う本がないから	25	24%
	テレビ・ゲーム・インターネットの方が楽しいから	19	18%
	読書がおもしろくないから	16	16%
	スポーツやクラブ活動の方が楽しいから	16	16%
	本を読むとつかれるから	10	10%
	習い事や勉強で時間がないから	9	9%
	どの本を読めばいいのかわからないから	7	7%
その他	1	1%	

その他

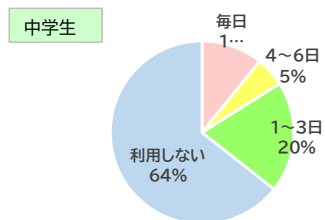
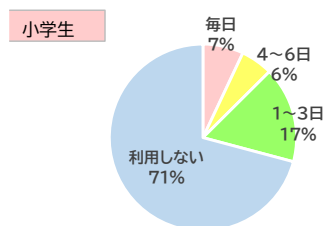
問9 小さいころ、まわりの大人に本を読んでもらいましたか？			
	回答数	割合	
小学生	よく読んでもらった	113	42%
	ときどき読んでもらった	97	36%
	読んでもらったことがない	11	4%
	おぼえていない	50	18%
中学生	よく読んでもらった	195	36%
	ときどき読んでもらった	229	43%
	読んでもらったことがない	20	4%
	おぼえていない	92	17%



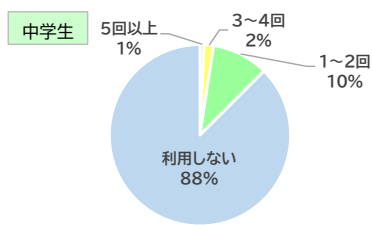
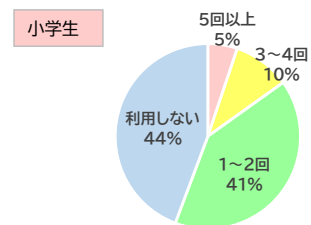
問10 まわりの大人は本を読んでいますか？			
	回答数	割合	
小学生	よく読んでいる	57	21%
	ときどき読んでいる	90	33%
	あまり読んでいない	56	21%
	わからない	68	25%
中学生	よく読んでいる	72	13%
	ときどき読んでいる	187	35%
	あまり読んでいない	179	33%
	わからない	98	18%



問11 スマートフォンやタブレットなどで、1週間にどのくらい読書をしますか？		回答数	割合
小学生	毎日	19	7%
	4～6日	15	6%
	1～3日	45	17%
	利用しない	192	71%
中学生	毎日	58	11%
	4～6日	28	5%
	1～3日	105	20%
	利用しない	345	64%



問12 学校の図書室を、1週間にどのくらい利用しますか？		回答数	割合
小学生	5回以上	14	5%
	3～4回	27	10%
	1～2回	110	41%
	利用しない	120	44%
中学生	5回以上	4	1%
	3～4回	9	2%
	1～2回	54	10%
	利用しない	469	88%



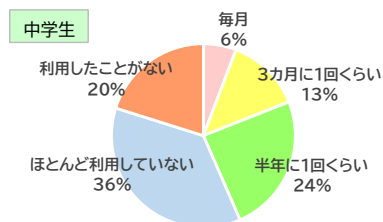
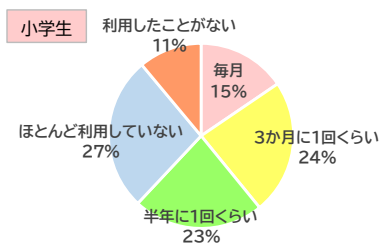
問13 学校の図書室にしてほしいことは何ですか？ (2つまで選べます。)		回答数	割合
小学生	いろいろな本をそろえる	109	25%
	本をさがしやすくする	70	16%
	くつろげるスペースをつくる	71	16%
	おしゃべりができるスペースをつくる	54	12%
	借りられる本の数をふやす	41	9%
	静かに集中して本を読めるスペースをつくる	38	9%
	開いている時間を長くする	20	5%
	借りられる本の期間を長くする	11	3%
	本のしょうかいやお知らせをする	10	2%
	本の相談ができる先生がいつもいる	4	1%
	その他	9	2%

その他	希望内容
小学生	・そもそも図書室がない
	・図書室をつくる
	・雑誌やまんがを置いて欲しい
	・漫画をもっと入れてほしい
	・ワンピースの漫画を置く
	・シリーズ系で揃えたりしてほしい
中学生	・特になし
	・読みたい本がある
その他	・友達と、一緒に本を読めるスペース

		回答数	割合
中学生	いろいろな本をそろえる	176	21%
	くつろげるスペースをつくる	174	21%
	おしゃべりができるスペースをつくる	160	19%
	本をさがしやすくする	102	12%
	開いている時間を長くする	70	8%
	借りられる本の期間を長くする	45	5%
	静かに集中して本を読めるスペースをつくる	43	5%
	借りられる本の数をふやす	26	3%
	本のしょうかいやお知らせをする	24	3%
	本の相談ができる先生がいつもいる	6	1%
	その他	11	1%

その他	希望内容
中学生	・マンガが欲しい、マンガを用意する
	・部活の終わりに借りたい
	・検定用のワークが欲しい
その他	・学級文庫の数を増やす
	・特になし

問14 学校以外の図書館を、1年以内にどのくらい利用しましたか？		回答数	割合
小学生	毎月	42	15%
	3か月に1回くらい	64	24%
	半年に1回くらい	62	23%
	ほとんど利用していない	73	27%
	利用したことがない	30	11%
中学生	毎月	31	6%
	3か月に1回くらい	71	13%
	半年に1回くらい	131	24%
	ほとんど利用していない	195	36%
	利用したことがない	108	20%



問15 学校以外の図書館にしてほしいことは何ですか？ (3つまで選べます。)		回答数	割合
小学生	いろいろな本をそろえる	80	14%
	くつろげるスペースをつくる	74	13%
	家の近くに本を借りたり返したりできる場所をつくる	56	10%
	本をさがしやすくする	55	10%
	楽しいイベントをする	54	10%
	電源やWi-Fiを使えるようにする	52	9%
	おしゃべりができるスペースをつくる	43	8%
	借りられる本の期間を長くする	34	6%
	静かに集中して本を読めるスペースをつくる	29	5%
	借りられる本の数をふやす	25	5%
	開いている時間を長くする	21	4%
	本のしょうかいやお知らせをする	15	3%
	自動貸出機を使えるようにする	11	2%
	その他	5	1%

その他	・同じ本の種類をそろえてほしい	・特になし
	・勉強ができるスペースをもう少し多くしてほしい	・分からない

		回答数	割合
中学生	電源やWi-Fiを使えるようにする	204	19%
	いろいろな本をそろえる	150	14%
	くつろげるスペースをつくる	140	13%
	家の近くに本を借りたり返したりできる場所をつくる	119	11%
	おしゃべりができるスペースをつくる	95	9%
	本をさがしやすくする	87	8%
	楽しいイベントをする	70	7%
	自動貸出機を使えるようにする	50	5%
	借りられる本の期間を長くする	45	4%
	開いている時間を長くする	36	3%
	借りられる本の数をふやす	26	2%
	静かに集中して本を読めるスペースをつくる	24	2%
	本のしょうかいやお知らせをする	22	2%
その他	6	1%	

その他	・特になし
	・飲食スペースをつくる

(3) クロス集計表・分析

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関①単純集計表]

小学生	問9 小さいころ、まわりの大人に本を 読んでもらいましたか？	人数	問3 読書が好きですか？	人数	割合
	よく読んでもらった		113	好き	54
どちらかという好き				43	15.9%
どちらかというときらい				11	4.1%
きらい				5	1.8%
ときどき読んでもらった		97	好き	33	12.2%
			どちらかという好き	41	15.1%
			どちらかというときらい	15	5.5%
			きらい	8	3.0%
読んでもらったことがない		11	好き	4	1.5%
			どちらかという好き	3	1.1%
			どちらかというときらい	3	1.1%
			きらい	1	0.4%
おぼえていない		50	好き	15	5.5%
			どちらかという好き	17	6.3%
			どちらかというときらい	14	5.2%
			きらい	4	1.5%

中学生	問9 小さいころ、まわりの大人に本を 読んでもらいましたか？	人数	問3 読書が好きですか？	人数	割合
	よく読んでもらった		195	好き	58
どちらかという好き				95	17.7%
どちらかというときらい				29	5.4%
きらい				13	2.4%
ときどき読んでもらった		229	好き	47	8.8%
			どちらかという好き	101	18.8%
			どちらかというときらい	71	13.2%
			きらい	10	1.9%
読んでもらったことがない		20	好き	4	0.7%
			どちらかという好き	10	1.9%
			どちらかというときらい	4	0.7%
			きらい	2	0.4%
おぼえていない		92	好き	24	4.5%
			どちらかという好き	25	4.7%
			どちらかというときらい	29	5.4%
			きらい	14	2.6%

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関①分析]

[小学生]

- ・小さいころに、まわりの大人に本を「よく読んでもらった、ときどき読んでもらった」と回答した人(210人)のうち、81%が読書が「好き、どちらかという好き」と回答
- ・小さいころに、まわりの大人に本を「読んでもらったことがない、おぼえてない」と回答した人(61人)でも、64%が読書が「好き、どちらかという好き」と回答

[中学生]

- ・小さいころに、まわりの大人に本を「よく読んでもらった、ときどき読んでもらった」と回答した人(424人)のうち、71%が読書が「好き、どちらかという好き」と回答
- ・小さいころにまわりの大人に本を「読んでもらったことがない、おぼえてない」と回答した人(112人)でも、56%が読書が「好き、どちらかという好き」と回答

[分析]

- ◆小中学生ともに、小さいころ、まわりの大人に本を「読んでもらった」人の方が、「読んでもらったことがない、おぼえていない」人より読書が好きな人が多い傾向がみられる。

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関②]

小学生	問10 まわりの大人は本を読んでいますか？	人数	問3 読書が好きですか？	人数	割合
	よく読んでいる	57	好き	36	13.3%
どちらかというとき好き			17	6.3%	
どちらかというとき嫌い			2	0.7%	
嫌い			2	0.7%	
ときどき読んでいる	90	好き	32	11.8%	
		どちらかというとき好き	40	14.8%	
		どちらかというとき嫌い	14	5.2%	
		嫌い	4	1.5%	
あまり読んでいない	56	好き	20	7.4%	
		どちらかというとき好き	20	7.4%	
		どちらかというとき嫌い	10	3.7%	
		嫌い	6	2.2%	
わからない	68	好き	18	6.6%	
		どちらかというとき好き	27	10.0%	
		どちらかというとき嫌い	17	6.3%	
		嫌い	6	2.2%	

中学生	問10 まわりの大人は本を読んでいますか？	人数	問3 読書が好きですか？	人数	割合
	よく読んでいる	72	好き	28	5.2%
どちらかというとき好き			29	5.4%	
どちらかというとき嫌い			11	2.1%	
嫌い			4	0.7%	
ときどき読んでいる	187	好き	55	10.3%	
		どちらかというとき好き	86	16.0%	
		どちらかというとき嫌い	40	7.5%	
		嫌い	6	1.1%	
あまり読んでいない	179	好き	34	6.3%	
		どちらかというとき好き	85	15.9%	
		どちらかというとき嫌い	47	8.8%	
		嫌い	13	2.4%	
わからない	98	好き	16	3.0%	
		どちらかというとき好き	31	5.8%	
		どちらかというとき嫌い	35	6.5%	
		嫌い	16	3.0%	

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関②分析]

[小学生]

- ・まわりの大人が本を「よく読んでいる、ときどき読んでいる」と回答した人(147人)のうち、85%が読書が「好き、どちらかというとき好き」と回答
- ・まわりの大人が本を「あまり読んでいない、わからない」と回答した人(124人)でも、69%が読書が「好き、どちらかというとき好き」と回答

[中学生]

- ・まわりの大人が本を「よく読んでいる、ときどき読んでいる」と回答した人(259人)のうち、76%が読書が「好き、どちらかというとき好き」と回答
- ・まわりの大人が本を「あまり読んでいない、わからない」と回答した人(277人)でも、60%が読書が「好き、どちらかというとき好き」と回答

[分析]

- ◆小中学生ともに、まわりの大人が本を「読んでいる」人の方が、本を「読んでいる姿をみていない」人より読書が好きなが多い傾向がみられる。

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関③]

小学生	問10 まわりの大人は本を読んでいますか？	人数	問6 1日あたりの読書時間はどのくらいですか？	人数	割合
	よく読んでいる	57	1時間以上	13	4.8%
30分から1時間まで			19	7.0%	
30分まで			24	8.9%	
読まない			1	0.4%	
ときどき読んでいる	90	1時間以上	16	5.9%	
		30分から1時間まで	20	7.4%	
		30分まで	49	18.1%	
		読まない	5	1.8%	
あまり読んでいない	56	1時間以上	8	3.0%	
		30分から1時間まで	11	4.1%	
		30分まで	27	10.0%	
		読まない	10	3.7%	
わからない	68	1時間以上	5	1.8%	
		30分から1時間まで	13	4.8%	
		30分まで	41	15.1%	
		読まない	9	3.3%	

中学生	問10 まわりの大人は本を読んでいますか？	人数	問6 1日あたりの読書時間はどのくらいですか？	人数	割合
	よく読んでいる	72	1時間以上	16	3.0%
30分から1時間まで			15	2.8%	
30分まで			35	6.5%	
読まない			6	1.1%	
ときどき読んでいる	187	1時間以上	10	1.9%	
		30分から1時間まで	45	8.4%	
		30分まで	118	22.0%	
		読まない	14	2.6%	
あまり読んでいない	179	1時間以上	8	1.5%	
		30分から1時間まで	24	4.5%	
		30分まで	116	21.6%	
		読まない	31	5.8%	
おぼえていない	98	1時間以上	9	1.7%	
		30分から1時間まで	10	1.9%	
		30分まで	63	11.8%	
		読まない	16	3.0%	

[家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関③分析]

[小学生]

- ・まわりの大人が本を「よく読んでいる、ときどき読んでいる」と回答した人(147人)のうち、46%が1日あたりの読書時間は「30分以上」と回答
- ・まわりの大人が本を「あまり読んでいない、わからない」と回答した人(124人)のうち、30%が1日あたりの読書時間は「30分以上」と回答

[中学生]

- ・まわりの大人が本を「よく読んでいる、ときどき読んでいる」と回答した人(259人)のうち、33%が1日あたりの読書時間は「30分以上」と回答
- ・まわりの大人が本を「あまり読んでいない、わからない」と回答した人(277人)のうち、18%が1日あたりの読書時間は「30分以上」と回答

[分析]

- ◆小中学生ともに、まわりの大人が本を「読んでいる」人の方が、本を「読んでいる姿をみていない」人より読書時間が長くなる傾向がみられる。

【児童・生徒の読書に対する意識の相関①】

小学生	問3 読書が好きですか？	人数	問12 学校の図書室を、1週間にどのくらい利用しますか？	人数	割合
	好き		106	5回以上	13
3～4回				13	4.8%
1～2回				40	14.8%
利用しない				40	14.8%
どちらかという好き		104	5回以上	0	0.0%
			3～4回	9	3.3%
			1～2回	47	17.3%
			利用しない	48	17.7%
どちらかというときらい		43	5回以上	1	0.4%
			3～4回	3	1.1%
			1～2回	20	7.4%
			利用しない	19	7.0%
きらい		18	5回以上	0	0.0%
			3～4回	2	0.7%
			1～2回	3	1.1%
			利用しない	13	4.8%

中学生	問3 読書が好きですか？	人数	問12 学校の図書室を、1週間にどのくらい利用しますか？	人数	割合
	好き		133	5回以上	1
3～4回				4	0.7%
1～2回				29	5.4%
利用しない				99	18.5%
どちらかという好き		231	5回以上	1	0.2%
			3～4回	3	0.6%
			1～2回	18	3.4%
			利用しない	209	39.0%
どちらかというときらい		133	5回以上	0	0.0%
			3～4回	1	0.2%
			1～2回	5	0.9%
			利用しない	127	23.7%
きらい		39	5回以上	2	0.4%
			3～4回	1	0.2%
			1～2回	2	0.4%
			利用しない	34	6.3%

【児童・生徒の読書に対する意識の相関①】

【小学生】

- ・読書が「好き、どちらかという好き」と回答した人(210人)のうち、42%が学校の図書室を「1週間のうち1回も利用しない」と回答
- ・読書が「どちらかというときらい、きらい」と回答した人(61人)のうち、48%は学校の図書室を「1週間に1回以上利用している」と回答

【中学生】

- ・読書が「好き、どちらかという好き」と回答した人(364人)のうち、85%が学校の図書室を「1週間のうち1回も利用しない」と回答
- ・読書が「どちらかというときらい、きらい」と回答した人(172人)のうち、94%が学校の図書室を「1週間のうち1回も利用しない」と回答

【分析】

- ◆小学生は、読書が「どちらかというときらい、きらい」であっても、図書室を利用している人が約半数いるので、読書以外の理由で利用している可能性が考えられる。
- ◆中学生は、読書の好ききらいに関わらず、図書室を利用しない人が多い傾向がみられる。

[児童・生徒の読書に対する意識の相関②]

小学生	問3 読書が好きですか？	人数	問14 学校以外の図書館を、1年以内にどのくらい利用しましたか？		
			人数	割合	
好き	106	毎月	31	11.4%	
		3カ月に1回くらい	25	9.2%	
		半年に1回くらい	18	6.6%	
		ほとんど利用していない	17	6.3%	
		利用したことない	15	5.5%	
どちらかという好き	104	毎月	8	3.0%	
		3カ月に1回くらい	25	9.2%	
		半年に1回くらい	28	10.3%	
		ほとんど利用していない	34	12.5%	
		利用したことない	9	3.3%	
どちらかというときらい	43	毎月	3	1.1%	
		3カ月に1回くらい	9	3.3%	
		半年に1回くらい	11	4.1%	
		ほとんど利用していない	15	5.5%	
		利用したことない	5	1.8%	
きらい	18	毎月	0	0.0%	
		3カ月に1回くらい	5	1.8%	
		半年に1回くらい	5	1.8%	
		ほとんど利用していない	7	2.6%	
		利用したことない	1	0.4%	

[児童・生徒の読書に対する意識の相関②]

[小学生]

- ・読書が「好き、どちらかという好き」と回答した人(210人)のうち、64%が学校以外の図書館を「利用している」と回答
- ・読書が「どちらかというときらい、きらい」と回答した人(61人)のうち、54%が学校以外の図書館を「利用している」と回答

[中学生]

- ・読書が「好き、どちらかという好き」と回答した人(364人)のうち、50%が学校以外の図書館を「利用している」と回答
- ・読書が「どちらかというときらい、きらい」と回答した人(172人)のうち、30%が学校以外の図書館を「利用している」と回答

[分析]

- ◆小学生は、読書の好ききらいに関わらず、学校以外の図書館を半数が利用している。
- ◆中学生は、読書の好ききらいに関わらず、小学生と比べると、学校以外の図書館の利用回数が減少する傾向がみられる。

中学生	問3 読書が好きですか？	人数	問14 学校以外の図書館を、1年以内にどのくらい利用しましたか？		
			人数	割合	
好き	133	毎月	23	4.3%	
		3カ月に1回くらい	20	3.7%	
		半年に1回くらい	35	6.5%	
		ほとんど利用していない	34	6.3%	
		利用したことない	21	3.9%	
どちらかという好き	231	毎月	5	0.9%	
		3カ月に1回くらい	37	6.9%	
		半年に1回くらい	61	11.4%	
		ほとんど利用していない	86	16.0%	
		利用したことない	42	7.8%	
どちらかというときらい	133	毎月	2	0.4%	
		3カ月に1回くらい	12	2.2%	
		半年に1回くらい	27	5.0%	
		ほとんど利用していない	64	11.9%	
		利用したことない	28	5.2%	
きらい	39	毎月	1	0.2%	
		3カ月に1回くらい	2	0.4%	
		半年に1回くらい	8	1.5%	
		ほとんど利用していない	11	2.1%	
		利用したことない	17	3.2%	

7. パブリックコメントの結果

令和7年12月19日（金）から令和8年1月25日（日）まで、丹波市みんなの図書館プラン（素案）を市民に読んでいただき意見をいただくパブリックコメント（意見公募）を実施しました。結果は下記のとおりです。

(1) 意見の募集期間

令和7年12月19日（金）～令和8年1月25日（日）

(2) 意見の応募者数及び件数

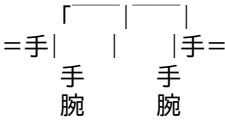
応募者数 6人、1団体 件数 25件（うち、公表を希望しない 1人 1件）

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		意見等に対する市の考え方
				有	無	
1	P23	アクションプラン・図書館を核とした生涯学習事業の実施に向けた検討	公民館があったところ生涯学習事業を公民館がしていた。最近では、生涯学習事業は図書館でも担うことが必須。 *生涯学習事業の実施に向けた事業を実施にはどうか。 検討では弱い。実施していかないと人材が育たない。住民と協働して事業を展開しなければ、未来を担う人材が出てこない。	○		図書館では、すでに各種講座(文学講座、こども読書活動推進講座等)の開催など生涯学習に関する事業を実施しております。また今後もP22に記載しているような講座を実施していきますので「～に向けた検討」という文言を削除します。 また住民と協働した事業展開については、P21(5)市民協働で運営するみんなの図書館に記載のとおり、取り組みます。
2	P25、27～28	構成図・職員配置図、図書館の役割について	館長の役割について、現場のトップであるはずの職員が方針や計画等について関与していないような印象を受けます。本来であれば現場のトップである館長で計画等においてもリーダーシップをとるべき立場と考えますが、館長が会計年度任用職員であるため決裁等にかかる手続きも館長不在で起きていることが予見できます。 また、図書館協議会が館長の諮問機関との記載があるが、上記の館長の役割を考えれば本来の諮問機関としての役割が果たされるのか疑問が残ります。こうした観点から、人事や体制にかかる件を今後見直す(早急にはできないと理解していますが)と共に、役割部分においては全体を把握している館長が方針や計画段階から関わられるよう、役割部分を再考してはどうかと考えます。		○	図書館長の役割としてこの図書館基本計画を策定する過程にも参加しています。図書館長の諮問機関である図書館協議会には図書館長のほか事務局として課長職も出席していますので、委員の皆さんのご意見をふまえて図書館運営を行っています。本計画のP27に図書館長の役割として「全館をまとめる立場として、計画の理念を現場のかたちにしていきます。」と記載しています。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
3	P20(3)および、P23(6)について		市民満足度の向上や持続可能な運営の観点から、他市町等の団体との連携についても記載してはどうでしょうか。 例えば、 ・P20「ライフスタイルに対応できる柔軟な運営の推進」アクションプランの中に近隣の公共図書館との利用日調整の検討 ・P23「柔軟で持続可能な図書館運営の推進」アクションプランの中に近隣公共図書館との連携事業を検討 等により市民交流が丹波市内外で促進されるとともに、図書館同士の交流にもつながり、サービス向上や情報共有、人事交流等プラス面が多いと考え、また、他市町の図書館利用が可能なことを知らない市民も多いと思いますので検討をお願いします。	○		近隣の公共図書館との連携につきましては、他市町図書館の資料が利用できるサービス(相互貸借)を行っておりますので、ご提案の他市町図書館の資料を取り寄せて利用できるサービス(相互貸借)について、わかりやすい周知を行うことを追記します。 (P20「(3)すべての市民が利用しやすい、便利な図書館」の「・市民の多様なライフスタイルに対応できる、柔軟な運営の推進」に、「・他市町図書館の資料を取り寄せて利用できるサービス(相互貸借)について周知」を追記) 利用日調整及び連携事業の検討につきましては、双方の市民の利便性向上を目指し関係市町との意見交換を進めます。
4	P1～	策定の背景について	「はじめに」の部分で簡単にではあるが教育振興基本計画の一部分が触れられていますが、抵触している条文(該当箇所)の記載が一切なく、総合計画等のどの部分が本計画に反映される等しているのかわかりません。 どういったことが総合計画等で謳われていて、それらをどういった考えのもと本計画に落とし込んでいるのかがこの一冊でわかるようにしなければ基本理念である「市民に寄り添い」から乖離しているように感じられます。 また、図書館ビジョンについてはQRコードが添付されており確認することはできますが、その他資料は本計画からすぐに確認することができません。 そういった点も含め、市民が本計画を理解し共感できるよう改善をお願いします。	○		「はじめに」の部分の記載内容について、第3次丹波市教育振興基本計画のP21からP23までに記載してあることを要約して引用しています。引用箇所を詳細に記載すると長くなるため極力簡略化して記載しているものです。第3次丹波市総合計画には、P40からP41にかけて図書館についての記載があります。 市民の皆さんに確認していただくために、「丹波市図書館ビジョン」だけでなく、関連計画のQRコードをP2に追加します。
5	P17～	アクションプランについて	市内の他公共施設(美術館やちーたんの館等)との連携についての記載箇所が見受けられないが、関係機関との連携は検討されていないのでしょうか。利用促進の観点からも多くの方にリーチする方が良いですし、連携することでより多彩かつ柔軟な図書館運営や事業が展開できると思います。		○	引き続き、植野記念美術館、氷上回廊水切れフィールドミュージアム、青垣いきものふれあいの里、恐竜博物館、歴史民俗資料館などと連携をしながら事業を実施しています。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
6	P25	構成図・職員配置図について	図書館系の構成員を見ると常勤職員が3人のみで、以外はすべて会計年度任用職員となっています。この体制で、本計画にあるアクションプランが実行できるのか疑問が残ります。本計画のアクションプランが形になるよう、体制の見直しや増員等を検討していただきたいです。 また、この図では司書資格者の有無等も確認できません。市の条例等で決まっているかもしれませんが、有資格者の登用や配置計画についても記載してはいかがでしょうか。		○	P23(6)まちの変化に対応する図書館・柔軟で持続可能な図書館運営の推進 に記載しておりますとおり、計画的に図書館職員を確保し、司書業務の専門研修を受講するよう進めていきます。 有資格者の登用や配置計画については、記載しませんが令和7年度の職員配置では、各図書館に1名以上司書資格を持った職員を配置しています。(図書館職員23名のうち、有資格者約6割)
7	P24	6. 評価方法について	第2章において多くのデータ等を取りまとめられており、大変ご苦労されたのではないかと想像できます。そういったデータを基に目標値が設定されているのだと思います。 現状でもしっかりと数値化されているので明解ではありますが、目標値の根拠があればより良いのではないかと思います。例えば全国との比較であったり、近隣施設との比較であったり。第2章内でもそういったデータの突合せができるようになっていればよりベストだと考えます。		○	P24 6. 図書館運営の評価方法につきましては、②有効登録者率については、近隣図書館等の図書館の数値を参考に設定しています。 丹波篠山市立図書館 有効登録者率12.8% 朝来市立図書館 有効登録者率10.9% 等 ①③④の指標については、これからの図書館が本の貸出しサービスに限らず幅広い事業を行うことで利用者のニーズをふまえた図書館運営となることを目標にしているため設定しています。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
8	P12	2. グランドビジョンが描く姿について	<p>世代毎にそれぞれ違う姿が設定してあるのは、より図書館との関係性をイメージしやすく、図書館との関わりを再設定できる内容であると感じました。</p> <p>ただ、主語が図書館と対象者が混在している箇所があるので、統一できるのであれば統一するか、図書館→対象者と対象者→図書館の関係性を分けて記載するほうがよりイメージしやすいのではないかと思います。</p> <p>または書き出しの統一で、「～として図書館があります。」等に揃えれば見やすいのではないのでしょうか。居場所や拠点、場といったものでも良いと思います。それでいうと、30歳代～の箇所が少し異なる表現に思えます。</p> <p>また、「ともにつくる」の該当箇所が少ない、またはないように見受けられるので、つくる要素が入ればなお良いものになると思います。</p>	○		<p>P12～13について、下記のとおり修正します。</p> <p>2. グランドビジョンが描く「市民と図書館」の姿 ライフステージや背景に応じて、グランドビジョンが描く「市民と図書館」姿を次のようにまとめました。(「市民と図書館」を追記)</p> <p>【高校生(16歳～18歳)】 勉強や進路準備の場でありながら、友人や地域の大人と語り合うことができたり、未来への不安や期待を抱く時期に自分を見つめおす居場所として利用しています。</p> <p>【19歳～29歳】 進学・就職 など、生活の変化が大きい時期に、図書館を学びと情報収集の拠点”として利用しています。</p> <p>【60歳代以上】 長年の経験や知恵を活かしながら、趣味やボランティアなどの活動を楽しみ、図書館を生きがいや仲間づくりの拠点として利用しています。</p> <p>【外国にルーツを持つ方(多文化共生)】 図書館で必要な情報を得ながら、多様な価値観や文化を持った人々が地域社会で共に生活しています。</p> <p>【さまざまな障がいのある方(読書のバリアフリー)】 来館が難しい人も、電子図書館サービスなど多様な手段で本や情報にふれています。安心して過ごせる空間として、思いやりのある支援が整った図書館を利用しています。</p>

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
9	P17	キャラクターやグッズの作成について	ゆるキャラといった親しみやすいキャラクターを通して図書館をPRしていくのはたいへん面白く良い試みだと思います。せっかく分館を含め6つの図書館があるので、各館でイメージカラー等を定めて活動するのも良いかもしれません。(P14のように) また、ロゴ(キャラクターと被るかもですが)も考えても良いかもしれません。例えば「丹」は本を開く姿に見えるので、親子で本を開いているような形はどうでしょうか。子どもが両側、大人が下から支えるような感じです。  また、丹を本に手足を生やしてキャラクターにするのも？いづれにしても、親しみあるキャラクターが生まれればよいですね。		○	計画に記載しておりますとおり、図書館キャラクターの制作を行い、情報発信を進めてまいりたいと考えております。詳細については現時点では検討中ですが、基本理念のもと市民公募により進めます。図書館のイメージカラーやロゴの作成についても検討します。
10	P17	郷土資料を電子図書館、本の配置	現在、郷土資料を探している立場として、借りようにも持ち出し禁止の資料が多く、図書館のみで読み進めていくには不便しているところなので、電子化していただければ大変助かります。すぐにでも実行していただきたい事項です。また、同一項目で書かれているゆとりある本の配置も実施していただければ助かります。ジャンルで面白そうな本を探すときにオススメで表紙やポップがあれば手に取りやすいと思います。		○	P17に ・郷土資料をたんばし電子図書館の独自資料として登録 ・ゆとりのある本の配置 と記載のとおり進めます。また本棚のゆとりを利用してご提案のように表紙を見せる配置や、おすすめ本のPOPを添えるなどの工夫で、来館者と本を結ぶ工夫を考えていきます。
11	P21	滞在型図書館、居場所づくり	全体として静寂が緊張感に繋がる印象があるので、もう少し利用しやすい雰囲気づくりができるようにBGMやゾーニング等を検討していただければたいへんありがたいです。できれば、カフェや本屋のような空間ができれば気軽に立ち寄る人が増え、そこで繋がりができるといったビジョンが生まれてくるのではないかと思います。		○	ゾーニングを検討し開架スペース全体はある程度にぎわいの生まれる空間としていきたいと考えております。ご提案のような空間づくりを含め、 P21・本の利用だけではない、誰もが気軽に立ち寄ることができる滞在型図書館を目指した空間や環境づくりとして実施します。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
12	P21	すべての市民が安心して過ごせる、居場所としての図書館	今の図書館の利用方法は本を静かに読むだけではありません。職員同士が業務について話したり、来館者に利用説明したり、幼児スペースでは子供と親が絵本について話すなど、コミュニケーションの場にもなっている一方で、閲覧席利用者の半数以上が読書ではなく自習室として利用しています。幼児スペースなのに、子供のおしゃべりを親が制す場面も見受けられます。丹波市の図書館の小さな閲覧スペースでは許容しきれない多様な音環境が必要になっています。そこで、図書館内は利用者が話しながら楽しく利用できる場所とし、静かなワークスペースを求めている人のために住民センターの別の部屋を開放してはどうか。そうすれば、丹波市の貴重な子供ののびのびと絵本を楽しめ、集中して勉学に励む事ができるサードプレイスになると思います。		○	ご提案のように、ゾーニングを検討し開架スペース全体はある程度にぎわいの生まれる空間としていきたいと考えています。中央図書館では静かな空間を求めている方のために、視聴覚室の開放を検討します。分館においては住民センターの会議室を開放できないか検討します。P21・本の利用だけではない、誰もが気軽に立ち寄ることができる滞在型図書館を目指した空間や環境づくりとして実施します。
13	P22	市民協働で運営するみんなの図書館	「みんなでつくる図書館」を掲げ、市民主体・市民協働の図書館づくりを明確にしようとしている点は、丹波市らしい特色であり評価できる。		○	今後も、丹波市らしい特色を生かしながら市民の声をふまえ、市民協働の図書館づくりを進めます。
14		計画策定プロセス	計画策定プロセスにおいて、丁寧に市民意見を聴取した記録があり、住民参加型の計画として評価できます。		○	P8のとおり、計画策定のプロセスにおいて、市民参加の機会を設けてきました。今後もP24に記載しているとおり、市民と図書館が対話を重ねながら評価を行い、市民とともに計画を実行していきます。
15		役割の整理	計画案では、関係部署、中央館、分館、館長、そして図書館長の役割が整理されており、全体としての運営体制が分かりやすく示されている点を評価いたします。市全体の方針を担う中央館と、地域に根ざしたサービスを担う分館の役割を適切に区分しながら、互いが連携し合うことを前提に考えられている点は、これからの図書館運営にとって重要な視点であると感じました。		○	P26～28に記載しているとおり、それぞれの役割を区分しながら連携しあう図書館運営を進めていきます。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
16	P22 市民協働 で運営する みんなの 図書館 P27 (1) 市民	役割の整理	<p>■ 指摘事項</p> <p>丹波市教育振興基本計画では、「社会教育士などの専門人材の活躍機会の拡充」が示されています。一方で、図書館基本計画(案)には、社会教育士を含む専門人材の役割が明確に記載されていません。図書館は、市民の学び・活動・情報活用を支援する施設であり、社会教育士が有する以下の専門性が特に活かされる場と考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援やワークショップ設計 ・市民協働や企画運営のサポート ・地域情報の整理・編集 ・学校や地域との連携調整 <p>このため、次期計画において図書館運営に関わる専門人材の役割や活用方法を明記することが、計画の実効性を高めるうえで有益ではないかと考えます。</p> <p>■ 追記案・修正案</p> <p>p. 22市民協働で運営するみんなの図書館 コーディネート・ファシリテート等の専門性を持つ社会教育士等の専門人材と連携・協働した運営の推進</p> <p>p. 27(1)市民 社会教育士等の社会教育・地域連携のコーディネート人材との協働を進めます。</p>	○		<p>P22 (5)「市民協働で運営するみんなの図書館」の「市民がつながれる図書館運営の推進」に、「・コーディネート・ファシリテート等の専門性を持つ社会教育士等の専門人材と連携・協働した運営の推進」を追記します。</p> <p>P27の記載はこのままとします。</p>
17	P28～29	6館の役割	<p>■ 指摘事項</p> <p>館ごとの戦略性・役割分担、市外の図書館や専門人材のとのネットワークが明確ではないと思います。</p> <p>■ 追記案・修正案</p> <p>4. 6館それぞれの役割とネットワークの部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6館それぞれの地域特性や利用状況を踏まえ、館ごとに重点的に取り組むサービスを整理し、市内外の図書館とも連携しながら、図書館ネットワークとして役割を補完しあう体制を構築する。 ・学習支援や市民協働を支える専門人材である社会教育士等と連携・協働した支援体制を整備する。 <p>◎(1)中央図書館の役割</p> <p>中央館については市全体の学習支援、市民協働、レファレンスサービスの中心的役割を担う拠点としての機能を明確化する。</p>	○		<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援や市民協働を支える専門人材である社会教育士等と連携・協働した支援体制を整備する。については、P22 (5)市民協働で運営するみんなの図書館に、コーディネート・ファシリテート等の専門性を持つ社会教育士等の専門人材と連携・協働した運営の推進を追記します。 ・P28 4. の見出しを「市内6館の役割と市外図書館との連携」に修正し、 (1)「中央図書館の役割」の中の「図書館全体のネットワークづくり」を「図書館全体の体制づくり」に修正します。 ・下記を追加します。 (3)市外図書館との連携 <p>国立国会図書館や県立図書館、県内他図書館との連携を深めることで、当館利用者への資料提供体制を補完します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他のご提案についてはP28に記載しているとおりです。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
18	P18 -19	公共図書館と学校図書館との連携の具体化について	<p>■ 指摘事項 司書教諭・学校司書との連携や地域学校協働活動との接続、社会教育士等の専門人材との連携・協働など、実施方法が具体化されていない。</p> <p>■ 追記案・修正案 ・学校図書館との連携においては、司書教諭・学校司書の役割分担を明確にし、読書活動や授業づくりの協働を進める。 ・地域学校協働活動推進員や社会教育士等とも連携し、子どもの学びや読書活動を支える体制を構築する。 ・必要に応じて、学校と地域をつなぐ社会教育士等の専門性を活かし、図書館と学校の連携を支援する。</p>		○	ご提案のとおり、司書教諭・学校司書との連携や地域学校協働活動との接続、社会教育士等の専門人材との連携・協働などについては重要な視点であると認識しておりますので、本計画期間中に、関係部署と連携し検討を進めます。
19	P23	柔軟で持続可能な図書館運営の推進	<p>計画案には新たに取り組む内容が、多様に盛り込まれており、図書館のマンパワーの強化が求められます。そのため、現在の職員体制やマネジメント体制で、計画案で書かれていることが実行できるのか不安があります。</p> <p>図書館職員のほとんどが会計年度任用職員であり、司書職の正規職員はいないと伺っています。持続的・安定的かつ専門的で持続可能な図書館運営のために、図書館職員の処遇改善と司書職の正規職員の採用について、計画内に記載する必要があります。また、図書館長の権限を明確にし、図書館内で決裁や判断ができる体制が必要だと思えます。</p> <p>以上を踏まえて、計画案の修正をお願いいたします。</p>		○	ご提案のとおり、安定的かつ専門的で持続可能な図書館運営のために、図書館職員の処遇改善と司書職の正規職員の採用が重要であると認識しており、教育委員会として引き続き検討していきます。
20		計画名	<p>計画の名称に関して、現在の計画名では市民が親しみをもちにくいものになっているため、計画の愛称を検討していただきたい。</p> <p>(名称案) 「丹波市みんなの図書館プラン」 「丹波市図書館みらいプラン」</p>	○		表紙など全体的に記載のある計画名についてですが、愛称について「丹波市図書館基本計画策定委員会」にて検討を行います。

No.	該当ページ	区分	意見等の概要 (できる限り原文のまま記載しています)	計画(案)の修正		計画(案)の修正
				有	無	
21	P16-17	レファレンスサービスの推進、広報について	レファレンスサービスとはそもそもどのようなサービスなのか、どのように利用すれば良いかを周知していく必要があると思います。 図書館内に利用方法を掲示することや、レファレンスサービスを利用してとても役に立ったという利用者の声を紹介してはいかがでしょうか。		○	ご提案のように、P17に記載している・レファレンスサービスをわかりやすく市民に広報に基づき進めます。ご意見を参考に、利用者の声を紹介するなど、わかりやすい広報を行います。
22	P25	職員配置図	常勤3名と知ってショックを受けました。専門性が必要としますし、中長期的な取り組みを進めるためにも常勤職員や複数年契約の職員を増やす必要があると考えます。		○	P23(6)まちの変化に対応する図書館・柔軟で持続可能な図書館運営の推進 に記載しておりますとおり、計画的に図書館職員を確保し、司書業務の専門研修を受講するように進め、中長期的なキャリア形成ができるような仕組みを検討します。 また、司書資格を持つ職員の登用や配置計画については記載しませんが、令和7年度の職員配置では、各図書館に1名以上司書資格を持った職員を配置しています。(図書館職員23名のうち、有資格者約6割)
23		アクションプランの表全体	アクションプランというタイトルで、内容が記載されていますが、書かれている内容はあくまで取り組みであり、プランではないと思います。「アクションプラン」を「アクション」や「具体的な取り組み」に変更してはいかがでしょうか。	○		P17から23の表中の「アクションプラン」を「具体的な取組」に表記を修正します。
24		アクションプランの表の見やすさ	アクションプランの表について、文字と表の線との空白がないため、表として読みづらいと感じます、行政計画として、表を含め全体の体裁を整えられるほうがよいと思います。また、左にアクションプラン、右に目指す姿の順で構成されていますが、計画としては、目指す姿に対して、どのようなアクションを行うのかの順番の方が読みやすく、理解しやすいと思います。		○	ご意見を参考に、表を含め全体の体裁を整えます。

意見者	
(1)市内に住所を有する人	5 人
(2)市内に事務所又は事業所を有する個人、法人等	1 団体
(3)市内に通勤・通学する人	0 人
(4)丹波市ふるさと住民登録者など	0 人
計(公表希望者のみ)	5 人 1 団体

丹波市みんなの図書館プラン
(丹波市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画)

令和8年3月

発行／丹波市教育委員会社会教育・文化財課
丹波市立図書館